

## 令和3年度 第1回 食の安全安心と食育審議会 (報告)

- 1 日時 令和3年7月7日 (水) 10:00~12:00
- 2 方法 Web 開催
- 3 出席委員 15名 (進行→芦田委員長:神戸大学大学院農学研究科教授)
- 4 意見 「食育推進計画(第3次)を踏まえた令和2年度実績と令和3年度取組」及び「食育推進計画(第4次)の策定に向けた主な論点」への主なご意見は下記のとおり。  
審議会後にメールにてご提出のあった意見も含む。

○ 第4次食育推進計画(案)がこれまでの第1次~第3次の推進計画と異なっているのは、第4次から「持続可能な食環境整備」の概念が加わったことである。

食の安全安心推進計画(第4次)においても基本的な考え方としてSDGsの理念との整合性を図って策定されようとしているので、食の安全安心推進計画と食育推進計画の基本方針の方向が一致しており良かった。どのような指標を用いるかについては、食の安全安心ではターゲットは食糧レベル、食育推進では食事レベルで食品ロスの削減に重点を置くよう区別できるとよい。

○ 県民の行動変容をいかに喚起していくか。4次計画では柔軟性を持たせることも必要である。

○ リモートだから出来ることもある。対面可能となった場合もオンラインへの配慮が必要である。

○ 30歳代女性の朝食欠食率が高くなっていることが懸念される。

その理由を明らかにするとともに、若い女性への対策が急がれる。

○ 調査回答者の生活背景(欠食理由)が分かるとよい。

特に、30歳代女性のライフスタイルは多様化している。

○ 第4次では用いる指標についても現在の状況に合わせて、変更や追加がなされ、指標の見直しが説明されていたのでよく分かった。しかし、柱2の見直し予定の「非常用食糧などの備蓄」については「家族構成や家族の健康状態に応じて」の部分が分かりにくいのではないかと。

○ 災害栄養に携わる一員として、備蓄日数、家族構成・家族の健康状態に応じた備蓄の種類や数量の準備についての指標変更は賛同する。この指標は全国的にも先進的であると思う。

○ 子ども食堂への補助継続に加え、子ども宅食等への支援は検討しているのか。

子ども食堂の1回あたり平均利用人数はどれくらいか。

○ 高校生や大学生への食育浸透活動も、さらに進めるべきと考える

○30～50歳代の壮年期へのアプローチについても継続が必要。この年代の食育への関心度は未だ低迷している。各企業にて取り組みやすい環境整備への動きも必要である。

○働き盛りの食育について、健康経営の切り口から浸透できればよい。

○コロナフレイル予防に向け、県下各地で創意工夫した取り組みに尽力している。

○兵庫県の水揚げ量は全国8位。重点課題では、「農業」に加えて、「水産業」も検討して欲しい。

○フードロスと食の安全安心は関連があると考えている。

昨今フードロスをなくす活動が世界的に活発化されているが、間違った啓蒙活動から「提供された食事の持ち帰り」などの推奨がなされている。食の安全の観点から食中毒機会が高い持ち帰りではなく、本来のフードロス防止のために適切な食事量の提供を勧めるようにPRするなどの対応が必要である。

○資料5-2でこれまでの兵庫県食育推進計画策定の推移が一覧表で示されており、基本方針には一貫して「ひょうごの五つの国の特徴、震災の経験」というひょうごらしさを活かした食育をすすめることが挙げられていた。現時点(令和3年3月末)では、県内41の全ての市町で食育推進計画を策定しているため、県内市町の食育推進計画の内容や成果も考慮されているのか。